

# 昭和59年度 定期総会開かる

## 三翠化学会

(題字は稲川先生)

第21号  
昭和59年11月10日 発行  
三翠化学会  
津市上浜町1515  
三重大学農学部  
農芸化学科内  
振替名古屋 9-59345  
電話 津(0592)32-1211  
印刷 (株)ある  
名古屋(052)332-086

### 久しい顔ぶれの参集で 懇親会も盛会裡に

昭和五十九年度三翠化学会総会は去る四月十五日(日)に東海支部総会と併せて、名古屋駅前(いわん)で開行された。

当日は午前十一時より三翠化学会総会を行い、引き続き十一時半より東海支部総会、さらに正午より「恩師を囲む会」として懇親会が午後三時頃迄行われました。

このようにして今回の総会は、東海支部と合同で開催されたので、多くの会員が、しかも久方振りで懐かしい顔ぶれの会員が数多く参集され、盛大な総会をもつことができた。



岡田会長の挨拶



大七回生の三翠応援歌



恩師をかこみ、なごやかな懇親会



#### 昭和58年度三翠化学会事業報告

- S58年 5月6日 第1回役員評議員会及び第1回基金運用委員会
- 5月15日 昭和58年度総会(於三重 大学農学部)
- 7月15日 三重県支部設立総会
- 8月31日 第2回役員評議員会
- 12月12日 会報第19号発行
- S59年 2月4日 第3回役員評議員会
- 3月10日 第2回基金運用委員会
- 3月26日 関西支部設立総会

#### 昭和58年度三翠化学会決算報告

◆収入の部 (単位:円)	
前年度繰越	29,564
会費	930,000
雑収入	9,891
計	969,455
◆支出の部 (単位:円)	
会報印刷費(第19,20号)	270,000
郵送通信費	215,150
会議費	115,800
人件費	70,000
事務費	8,630
三翠会負担金	30,000
支部設立補助金(三重・関西)	40,000
諸雑費	22,760
計	772,340
◆差引残高	197,115

#### 昭和59年度三翠化学会事業計画

- S59年 4月15日 昭和59年度総会(於名古屋)
- 5月 第1回役員評議員会及び第1回基金運用委員会
- 7月 第2回役員評議員会
- 8月 会報第21号発行
- 12月 第3回役員評議員会及び第2回基金運用委員会
- S60年 2月 第4回役員評議員会
- 3月 会報第22号発行

#### 昭和59年度三翠化学会予算

◆収入の部 (単位:円)	
前年度繰越	197,115
会費	700,000
雑収入	10,000
計	907,115
◆支出の部 (単位:円)	
会報印刷費(第21,22号)	400,000
郵送通信費	230,000
会議費	120,000
人件費	80,000
事務費	10,000
三翠会昭和59年度負担金	30,000
予備費	37,115
計	907,115

#### 昭和58年度三翠化学会基金会計報告 (昭和59年4月15日現在)

◆収入の部 (単位:円)		◆資金管理内容 (単位:円)	
前年度繰越	2,498,553	定額郵便貯金	1,600,000
預金利息	104,929	国債(60万円)	597,340
計	2,603,482	郵便貯金	116,621
◆支出の部 (単位:円)		現金	70
4支部補助金	80,000	計	2,314,031
三翠化学会設立10周年記念植樹費	100,000		
58年度卒業記念品費(※別表)	54,400		
こうより補助費	30,000		
ネクタイピン費(58年度卒業記念品予定分)*	19,000		
通信費	1,070		
雑費	4,981		
計	289,451		
◆差引残高	2,314,031		

\*は卒業生数の都合により、59年度卒業生に充当予定

### 寄稿のお願い

三翠化学会は、皆様からの会費で運営されております。円滑で活発な会の運営のため、会費の納入に御協力を願います。

●「三翠化学」(こうより)へもそれぞれの分野で活躍の会員の皆様、会報「三翠化学」の編集者は、この紙面が会員の活発な情報交換の場になり、会員相互の連携が密にはかれる媒介になってほしいと切望しています。

皆様の近況や職場の紹介等、どしどし原稿をお送り下さい。「こうより」は農芸化学科の教官・卒業生・在学生を結ぶ機関誌として誕生し、回を重ねて27号まで発行されてきました。来年早々には28号を発行すべく準備中です。学生が中心になった「こうより」編集委員会では、在学生だけの文章で編集しても機関誌の名前に託されたようなコトりにならないと、先輩からのご投稿を熱望しています。学生時代の思い出など何なりと結構です。ご寄稿をお待ちいたします。

同封しますのでよろしくお願ひします。(会計幹事)  
振替番号 名古屋 九一五九  
三四五 三翠化学会



# 今、私は...

## 那須高原の草地試 ではや一年余り

大31 小島 誠

那須は涼しいところだとい  
う外れな知識。那須高原は確  
かに涼しいが、ここは裾野の那須  
野ヶ原。  
農林水産省草地試験場に着任  
しては一年余り、現在私の所  
属する研究室で進められている  
研究は、高品質飼料作物の合理  
的養分吸収様式の解明と施用法

の改善と、土壤・植物・家畜系  
における微量元素の動態の、二  
つの柱からなっている。  
前者での研究は飼料用トウモ  
ロコシを栽培して、堆肥肥  
の有無や、追肥の有無・時期等  
により、その栄養量や無機養  
分の吸収特性についてです。  
また後者はオーチャードグラ  
スを栽培し、微量元素、特にセ  
レンの存在形態による吸収特性  
についてです。  
草地でなんだろうと思われ  
る方も多いと思います。私もま  
だよくわかりませんが、草なんて  
ほっとけば生きてくるもので、  
どこでも雑草の問題は大いさ  
なのに、ここでは草に肥料をや

り、草を育てて反芻動物に  
るのが仕事だなんて全くこ  
ろ変われば常識などというも  
は、すぐにひっくり返ってしま  
うと痛感させられております。  
小さい頃から草花に見向きも  
しなかった私が、今では背丈を  
遙かに越えたトウモロコシを見  
上げ、またセレンの濃度障害で  
枯れかかったオーチャードグラ  
スを見つめる毎日を送って  
おります。

四日入社以来、すでに四月  
月が過ぎようとしております  
が、学生時代お世話になりました  
た諸先生方ならびに先輩、後輩  
の皆様方お変わりございません  
でしょうか。私は、今だに研修  
中の身で毎日忙しい日々を送っ  
ています。入社の際、持田信  
夫社長が、「私と一緒に苦勞す  
る気のない者は、この式場から  
退場してくれよう」といって  
と大変厳しいあいさつをされ、

私共新人はもろもろのこと、人  
事課の先輩方も、度肝を抜かれ  
たのを覚えています。その社  
長の言葉通り、四月末まで富  
士にある研修所で、みっちり基  
礎知識をたたきこまれました。  
富士山の雄大な姿を横目に、レ  
ポートとテストにおわられた毎日  
を過ごし、五月は薬局店への販  
売実習を行いました。重い営業  
カバンと地図を片手に、手取り  
次第に薬局店を訪問し、時には

薬局の先生からしかられ、また  
励まされながら、五〇万のノル  
マを達成できた時の感激は忘れ  
得ぬものとなっております。もち  
ろんこの一カ月で、自分の脚力  
に自信ができたのは言うまでも  
ありませんが、同僚の一人が過  
労で倒れ、会社を去っていった  
のは残念でした。私共が  
勉強させていただいたと思っ  
て、現在はやつと学術課としての  
専門教育を受けています。午前

そして全てが自分の健康から始  
まるということでした。六月に  
入ってからは、再び富士の研修  
所で製品知識を学び、中旬から  
七月の末まで、フロリッドと  
いう抗真菌剤の営業研修として  
開業医の先生方を訪問させてい  
ただきました。先生方にとって  
は、新人というのはいやううっ  
とうしい存在らしく、汗だくに  
なって訪問しても会ってしまえ  
ないことも多く、精神的にも非  
常に疲れた研修でしたが、なか  
には、夕食をこそうしてくれ  
る先生もおり、いろいろな意味で  
勉強させていただいたと思っ  
ています。

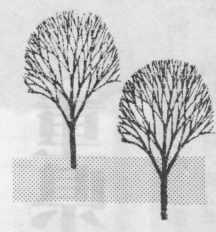
中講義を受け、午後はレポート  
や文献等を調べ勉強していま  
す。学生時代教えていただきま  
した。生物化学(生化学)や微  
生物学など非常に基礎知識とし  
て役に立っており、教えていた  
だきました先生方を折りにふれ  
思い出しております。話しは少  
し脇道に逸れますが、この八月  
に新しく「グロリーツ」とい  
う育毛剤を発売させていただい  
たことになり、恩師の先生方の中  
にも、是非一度試していただき  
たい先生が数方いらっしゃいま  
すが、「あつ、私のことかな」と  
思われましたらよろしくお願  
い致します。  
さて、学術という所がどんな  
仕事をするのかを紹介させてい  
ただきますと、主に大病院等  
を訪問して、製品に関する文献  
紹介、学会情報、臨床治験等  
のお願いなどを他、営業の方

## 土壌肥料の研究と 行政で十二年

大21 和仁 外雄

岐阜県農業試験場環境部土壌  
肥料課兼岐阜県農政部農業技術  
課肥料機械係という、非常に長  
つたらしいのが、今の私の名詞  
です。農試では、土壌肥料部門  
の試験研究(?)を、県庁では、  
肥料取締行政を担当していま  
す。肥料という素材を、全く立  
場の異なる方向から扱っている  
わけですが、仲間からは、「精  
神的にチャランポランなお前  
は適任だ」と言われながら、毎  
日汗を流しています。  
私が就職してから二年目に  
なりますが、現在、岐阜県職員  
中、三翠化学会員はわずか二名  
のみです。覇気ある後輩が来て  
くれる事を期待して、少し職場  
の案内をします。

美濃平坦地に至る複雑な気候、  
地形に対応すべく、三ヶ所の農  
業試験場があります。しかし、  
環境部門土壌肥料及び病害虫  
は岐阜農試にしかなく、全県一  
区に対応が要求されます。又仕  
事の内容も、施肥技術、重金属  
汚染、農薬残留と巾広い分野に  
及びます。したがって、我職場  
の人間に要求されるのは、一に  
体力、二に忍耐力です。身体的  
に、かつ精神的にタフな若者よ、  
岐阜農試へ来られ。

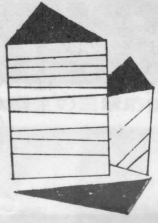


## “テンペ”って御存知ですか?

大30院17 増田 芳孝

“テンペ”って御存知ですか。  
社会人になって四月少々、  
月日が経つのは早いもので、ま  
だ学生気分が抜けきらないうち  
に四月が過ぎてしまいました。  
しかし、この間には研修・  
実習・販売促進(営業)など学  
生では得られない数多くの体験  
を得ました。中でも販売活動  
はスーパーの一角で直接お客さ  
ん相手に商品を売る活動だった  
ので、生の声が聞けるなど貴重  
な体験となりました。  
今は一応実習も終了、配属先  
の開発で“テンペ”という商品の  
仕事をしています。皆さんは“テ  
ンペ”って御存知でしょうか。  
多分名も聞いたことがないと言  
われるのではないのでしょうか。こ  
こで少々テンペについて説明し  
ますと、テンペは大豆を原料と  
した発酵食品の一つで、形状は  
大豆が白い菌糸で被われたプロ

テック状の食品です。特徴とし  
ては、同じ大豆発酵食品の納豆と  
比較して粘り、糸引きがないこ  
と、また強い臭い、味が甘いこ  
とです。さらに大豆が菌糸で被  
われているためスライスなどの  
ような形にカットできることも  
特徴といえます。このテンペは  
もともとインドネシアなどで伝  
統的に食べられていた食品で、  
日本ではほとんど親しみのない  
食品です。アメリカなどでは豆  
腐とともに健康食品としてプ  
ームになっていますが、日本にお  
ける市場の開拓はまだ数年必要



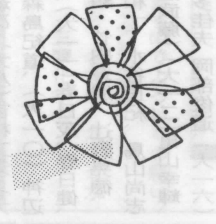
と思われる。しかし、いずれテ  
ンペは豆腐・納豆と並ぶ大豆食  
品になるものと確信して、私達  
テンペのスタッフは開発に励ん  
でいます。  
新しい素材を見つけ研究開発  
を進め商品にしていこうとは、  
花やかのように見えますが、実  
際は地味で忍耐の要ることで  
す。しかも企業の研究は、大学  
のそれとは異なり、利益を考え  
ながら限られた時間内に達成し  
なければなりません。これは当  
然なことではあります。それは  
故大変な仕事と実感していま  
す。社会人になってまだ数カ月  
の私にとって、本当の苦難はこ  
れからだと思えますが、一生懸  
命励みたいと思えます。これか  
ら先、大学の先生方、諸先輩方  
にはお世話になることもあると  
思います。その節はよろしく  
お願いします。

学生という名を卒業して、は  
や数ヶ月が、すきようとしてい  
ます。この間、私は、学生から  
見習い社員、正社員とめまぐる  
しく呼び名が変わると共に、生  
活もかわりました。学生時代と  
一番変わったのは、自分を気づ  
かうようになった事です。ひと  
つの不摂生が即、次の日の仕事  
にさしつかえます。特に、自社  
のような食品会社の研究室で  
は、自分の舌と鼻が仕事の基本  
となるので、健康にだけは、注  
意しております。以前は、色々  
なものを食べたり、飲んだりし  
て、「おいしい」という事が素直

に言えたのですが、仕事に関  
しては、それがとてもむづかし  
いです。AとBとを比べて、ど  
ちらが甘い、どちらが酸っぱい  
という事が言えるのですが、「こ  
れがおいしい」という事は本  
当にむづかしいです。私も一応  
口の端くれなので、一日でもは  
やく先輩方のように自分の味覚  
に、自信がもてるようになりた  
いと思いつつも、味見でおなか  
をいっぱいしている今日此頃  
です。今後の課題として一番気  
になるのは、味見量と体重増加  
のバランスです。  
先輩の中には、ちらほらり、

訪れ、農学部校舎の前立ち  
私とはなんと「実験のつづきは  
何だったか、今日こそはミスし  
ないように気をつけよう」など  
と、前日まで大学に通っている  
学生のような事を考えてしま  
いました。まだ完全に学生から脱  
皮できていない自分に気づき、  
おかしな感じがしました。  
けれども、そのように感じなく  
なる日が、そう遠い日の事では  
ないの、さみしいような気が  
します。このようにして、一歩  
一歩、一人前の社会人になっ  
てゆきたいと思えます。

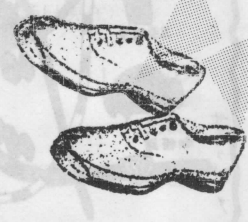
話ばかりです。先日大学を  
卒業して、生活環境が全く  
変わり、とすると毎日の雑踏  
や忙しさの中で、自分を見失  
いがちではありますが、仕事は必  
ずその人の人間性を反映するも  
のと思われ、心に余裕  
をもち成長しよう努力してゆ  
きたいと思っております。取り  
留めのない文章になってしま  
いましたが、最後に、恩師の先生  
方ならびに諸先輩の皆様方の今  
後のご発展とご健康をお祈りし  
まして筆をおかせていただきます。  
大32 山田 康 恵



# 社会人一年生

## 体重が気になる味見見習。プロ

大32 山田 康 恵



# 各支部で総会開催さる

## 三重県支部 森林浴大会

八月四日、天地をつんぐく雷が過ぎて、流れゆく霧の間に三峰の頂が見え始めた頃、次々とメンバーがひぐらしの鳴く演習林庁舎に到着—総員幼児を含め五十八名。

カラスアゲハが舞い、ウバユリ、クサアジサイが咲く森林のなかを散策したり、溪流に足を冷やしたりしてひとときを過ごし、十七時バスで山荘「大吉」に移動。

渡辺三重支部長、中川三翠化学会副会長の挨拶のあと、嶋林幸英氏の音頭で乾杯！アマゴ料理を肴に河合美登利氏、清水寛氏差入れの日本酒を酌みながら、用意したカラオケを用いることなく、それぞれ懐古談に花を咲かせて二十時、一旦宴会のきりをつけるべく芝田博氏の音頭で万才三唱！

翌朝、大学農場の本醸造味噌農技センターの有精卵を用いて今井滋氏の手のこんだ献立による朝食。  
九時半より大吉センターの溪流で福田氏差入れの井村屋製菓のジュース、プリンを頂きながらアマゴ釣り、アマゴつかみに興じ、十一時昼食後記念撮影を行い解散した。  
なお、紙面を借りて次のとおり決算報告をさせていただきます。  
収入 四三二、〇〇〇円  
(当日 四十九名分)  
支出  
宿泊費 七一、〇〇〇円  
宴会費 二〇〇、〇〇〇円  
遊漁費 四〇、〇〇〇円  
食糧費 三〇、八九六円  
通信・会議費一八、八六〇円  
計 三六〇、七五六円  
差引 七一、二四四円  
おつて、市川淳、陽子夫妻、庄山孝義氏、中川潔彦氏をはじめ、多くの方々から会費以外にカンパを頂きましたので、表記



演習林下の大吉アマゴセンターにて 中川副会長写真



世代交代 若魚の二世たち (アマゴつかみ)



皆んなで食べれば よりおいしいアマゴ料理



●いこの村はりまへのルート  
(鉄道) 山陽本線「加古川駅」乗換え～北条線「北条駅」～車(7分)～いこの村はりま  
(神戸電鉄「新開地」～「小野駅」～回廊バス～いこの村はりま  
(自動車) 中国縦貫(滝野・社インター)～県道社北条線へ進み～神姫バス停「玉丘西口」～北へ300m～いこの村はりま  
加古川バイパス西出口～高砂北条線～国道372号線～いこの村はりま  
●おみやげ……イグサ民芸品・羅漢こけし・羅漢もなか・羅漢石仏・木工芸品など。  
●おもな行事……住吉神社の節句まつり(4月2・3日)、加西サイサイまつり(8月上旬)、ひょうご花のフェスティバル(4月末～5月5日)、日吉神社の秋まつり(10月10日)。  
いこの村はりま ☎07904(4)1750  
(お問い合わせ・お申込み) 〒675-24 兵庫県加西市笹倉町字ラッシュ谷823-1

### 平倉演習林にて 専2 佐々木 敏 雄

誰もしばらく山を待ち仰ぎ  
のち入り来る演習林舎に  
はたまたかてカラスアゲハが道の水  
吸ふを待つなり車を止めて  
雷雨過ぎし川面を霧が昇りゆく  
たぎつ流れになづさひながら  
ハンカチーフに少女が摘みて包み持つ  
クサアジサイのうすきくればなる  
諸手にてアマゴを握めるおどろきは  
一生残らむ子等の心に  
暮れはやく溪の道辺に白じらと  
蓄のまのウバユリが立つ  
窓の外杉の幹みきも闇に消え  
吾等の宴たけなはとなる  
平倉の溪の清水を割りて飲む  
友が造り持ちこしウキスキー  
年の差はおのづからなくスクラムを  
組みつてフィナーレの応援歌うたふ  
滝水の音となほ約み叫ぶ声  
聞ゆるままに眠りゆきたり

## 関東支部 農芸化学会東京開催に合わせ総会

すでに彼岸をすぎたにもかかわらず、冷たい雨が降って春のおとずれが待ち遠しく思われた三月三十一日(土)午後六時、八時、東京有楽町の中華レストラン「るん」において、三翠化学会関東支部総会(会長 長瀬和雄)が開催された。  
関東支部総会は先生方の参加を仰ぐため、東京で農芸化学会が行われる時期にあわせて開催されることを恒例とし、今回は前回(五十七年四月)以来二年ぶりの開催となった。  
あいにく雨の降る寒い土曜日であったが、約三〇名の卒業生が集い、熊沢、柏村、西川、梅林、嶋林、松嶋、嶋田、高橋、古市、赤木、山田の各先生方も参加され、懐かしい歓談のひとときを過ごした。定刻より少し遅れて六時十五分開会。  
まず、長瀬会長から挨拶、次いで熊沢先生の音頭で威勢よく乾杯の後、農芸化学科主任である嶋林先生からお言葉をいただいた。  
程良く酔いがまわり、宴会の雰囲気盛り上がったところで、先生方お一人づつから近況をお話し、昔と変わらぬお元気な

## 関西支部 予告

### 11月17日(土)18日(日)

### いこの村はりま

お声、お姿に接し、一同学生時代を思い出しながら傾聴した。引き続き大先輩である専一の諸氏から順に卒業年次ごとに参加者それぞれが各方面での活躍ぶりなどの近況を報告した。  
酔うほどに話の輪は広がりが外寒さを吹き飛ばすような熱気が会場に満ちている中で全員が記念写真を撮り、専二榊原繁雄氏のリードにより三重大学校歌、応援歌を高らかに歌い、赤木先生の音頭による万歳三唱で別れを惜しみつつ宴の幕を閉じた。  
今回の幹事は大一一回であったが、若い卒業生の参加が少ないため、次回は大一二回と大一二回が共同で幹事を受け持つてはどうかという意見が強く出された。三翠化学会各支部の層のご発展を祈りながら関東支部総会の報告とする。参考までに卒業年次ごとの参加者を次に記した。(敬称略)  
(専一)長瀬和雄、(専二)榊原繁雄、中川紀一、(大六)林成美、林真、古川千和、(大六)

吉野遷次、(大八)吉村文夫、(大九)森島紀道、(大一一)神辺道雄、(大一二)春日茂、春日健、高田順、竹内章明、辻野晃徳、手塚和十、水谷正紀、鳥山尚志(旧姓武藤)、(大一二)亀山幸輝、吉田多佳夫、岡部俊道、(大一二)市川正、(大一二)東海裕作、(二〇)大久保利美、(大二七)満島利夫、小島実(旧姓鳥居)、(大二九)荒木幸隆、文責 春日健

皆様方の幅広い参加を是非お願い申し上げます。 敬具  
日時 十一月十七日(土) 十八時三十分頃～十一月十八日(日) 十時頃  
場所 いこの村はりま(兵庫県、加西市)  
近くには五百羅漢で有名な一浄寺、又東洋一と言われるフラワ―センター他があり御家族連れにも楽しんでいただけます。  
費用 九千円を予定(家族は実費)問い合わせ先 大阪府豊中市三和町一―一―一 三翠化学工業(株)香料部香料営業課 木下崎次